福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物認可（毎月一日発行）
2025年8月1日（金）第851号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人 / 梁栄友・編集人 / 鄭守煥
印刷所　青丘文化社

＜2025年 日本基督教団･在日大韓基督教会 平和メッセージ＞

日本基督教団　総会議長　雲然　俊美
在日大韓基督教会　総会長　梁　栄　友

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。（ヨハネによる福音書　20：19―20）

自らが属する国民国家を代表する（represent）のではなく、「平和」が損なわれている世界にあって、イエス・キリストが吹きかけてくださる聖霊を受けた者として、小さくされ深い傷を負い、あるいは命を奪われた人々の声を再―現前する(re-present)者となることを望みます。

この地の表現者が「危機は単層でない」と発言したように、キリスト教界も「混沌とした」状況の中を生きているとの認識のもと、復活のイエス・キリストのからだには十字架の傷がありありと残っていたこと、つまり、復活は、十字架の死を「なかったこと」にしたのではないことをしっかりと胸に抱きつつ、イシューをカタログのように整理することからできるだけ離れて、危機の諸相／諸層に埋め込まれた問いをともに噛み締めたいと思います。

●戦後80年をめぐって

1945年８月15日から80年の時を迎え、この日の名称が「敗戦／終戦／光復」と異なった言葉で表現されることの意味を、そして、その差異はいったい何によってもたらされたのかを噛みしめることができる私たちでありたいと思います。その際、私たちは、誰の痛みを受け止めたのか。自分の属する共同体や国家を越えて、帝国主義／植民地支配と戦争という暴力を導いた人間の愚かさによって苦悩と痛みを被ったすべての存在の痛みの声を聴く耳は備わっていたのかどうか、この時、深く顧みる者でありたいと思います。

●日韓条約60年をめぐって

60年前に二つの国民国家の間に締結された条約の意味をともに噛み締めたいと思います。日本は植民地支配の「補償」という言葉を忌避し、「経済支援」という名分にこだわり、韓国は「経済優先」の必要に迫られ、ついには曖昧な妥協に至りました。このことによって、日本は歴史修正の勢いがつき、韓国は独裁政権の正当化に繋がったこと、そして、その後の分断をさらに深刻にしたことの意味を、また、「補償」ではなく「経済支援」という表現に固執したことにより、深い傷を追った個人の痛みが不問に付される道を築いてしまったことの意味を、ともに噛み締めたいと思います。その淵源には、朝鮮半島の北側を無視し、「朝鮮籍」として取り残された存在に対して、「煮て食おうが焼いて食おうが自由」との国家の意志が横たわっていたこと、そして「日韓」の双方にそのことに対する深い悔い改めが不在であったことを、ともに記憶したいと思います。

●この地と彼の地に積み重なった戦争をめぐって

「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」と刻まれた広島の原爆慰霊碑。「ベトナム戦争中に韓国軍が引き起こした虐殺事件に謝罪するため」に済州島の聖フランシスコセンターに建てられたピエタ像。自らを射抜く、この二つの碑が指し示す心の深さを、いま、この時、ともに胸に覚えることができる私たちでありたいと思います。併せて、朝鮮戦争を、この地の経済発展の契機として「特需」と認識してきたことへの深い悔い改めを共有するとともに、パレスティナなどで起きているジェノサイドを結果として見て見ぬふりをしてしまっている私たちが想像力を取り戻し、「世界には自分とは違う痛みがある」ことを痛切に感じることができる者でありたいと思います。

●ヘイトをめぐって

在日コリアンをめがけたヘイト・スピーチやヘイトクライム、そしてクルド人に向けて最も過激な矛先を向ける敵意が存在します。その敵意を後押しするような国会議員の言説が湧出する危機を、ともに危機と明らかに認識したいと思います。しかるべき法的措置がなされることの働きかけをおこなうとともに、「ともに生きる」ことと、「誰かを排斥する」ことの分岐点はなぜ現れたのか、「ともに生きる」道を歩むキリスト者の道はどのように整えられるべきか、祈りのなかで、ともに模索する私たちでありたいと思います。この道は、いまも暴力にさらされている沖縄の民の苦悩や、原発事故の傷などなかったことにされつつあるように思われる福島の人々の痛みを、「はらわたがちぎれる思い」をもって共感された／「深く憐れまれた」（マタイ９：36）イエス・キリストのからだに連なる道であると信じます。

●貧困と格差、蔓延する不遇感のなかで

物価の高騰、給与の目減り、就職氷河期を生きた人々の抑圧された生に見られるように、多くの人が、いままでになく明るい明日を予測できない不安を感じながら、「わたしだって可愛そうなんです」とつぶやくような社会に、私たちは生きています。そのなかで、蔓延する「自己責任」という言葉を、人々はいつのまにか内面化し、「ともに生きる」道を自ら遮断しているのではないでしょうか。SNS上に繰り広げられる薄っぺらな記号のような「コトバ」の氾濫のなかで、人々が敵意によって不安を満たすことが起きているとしたら、キリスト者の道は、そのような「コトバ」がもたらす不安の似非の「解消」ではなく、真の「平和」をもたらす、「いのち」の「ことば」を届けることであると信じます。

●私たちは、いま、この時、イエス・キリストの洗足の身振り（ヨハネ13）をともに想起したいと思います。

生活の中で最も汚れた部位である足を洗うということ。それは、汚れた部位を指摘して非難し分断を深めるのではなく、その部位を洗い合うことによって、自らの汚れに気づき、悔い改めを忘却する身振りを離れて、新たな道に進むからだを整えることと信じます。「日韓」という国民国家のアイデンティティを背負い／背負わされつつも、私たちが背負うべき悔い改めの忘却という責任を引き受け、イエス・キリストの十字架の贖いに値する生を、「いま、ここ」から、再び、新たに、ともに紡いでゆきたいと思います。

2025年８月１日

関東地方会

洪雄杓牧師委任式挙行

山形ウリ教会に新たに赴任

2025年6月28日（土）、関東地方会の山形ウリ教会にでは新しく赴任された洪雄杓牧師の委任式が執り行われた。

臨時堂会長の馬栄烈牧師の司会のもとで開会された礼拝には、関東地方会の副会長の鄭有盛牧師がから「聖霊に満たされるウリ教会」（使徒言行録２：１～４）という説教がなされた。

牧師委任式は関東地方会長の金迅野牧師の司式で紹介、誓約、祈祷の後、洪雄杓牧師が山形ウリ教会の委任牧師になったと宣布した。勧勉には関東地方会書記の姜章植牧師が行った。

この度、関東地方会から山形ウリ教会の牧会を委任された洪雄杓牧師は、1966年韓国で生まれ、牧園大学校物理学科を卒業後、協成神学大学院を卒業してから2000年に基督教大韓監理会で牧師按手を受けた。2011年～2015年の間には宣教師としてメキシコに派遣され活動し、2015年から10年間関東地方会の北上ベテル教会（岩手県）で牧会した。

家族は裵ヨンソン夫人と２男（韓国在住）がいる。

西南地方会

合同夏期学校を開催

2教会から53名が参加して学習

７月19日（土）午前10時30分から21日（月・祝）午後１時まで西南地方会教育部と福岡教会が合同で夏期学校を開催した。

福岡中央教会から子供２名と奉仕者２名、福岡教会から子供21名と奉仕者18名、計53名が参加した。

教会が初めての５名の子供たちも招待され、福音を伝えることができた。講師は趙賢貞伝道師（蔚山平康教会）と呉ミンジン勧士、呉ヨンフン執事、そしてイムソンファ執事が韓国からきて奉仕した。

今年の夏期学校の主題は「ゴスペル探検隊と共にする復興大作戦」であり、讃美と踊りを習い、また、工作時間には聖霊に満たされた教会と自分の姿を作る時間もあった。21日野外活動の時間にはブルーベリー農園を訪問し、ブルーベリーとラズベリーを直接収穫して笑顔に包まれた。

（報告：林明基）

関東地方会

日韓教会交流会の開催

関東東地域と教団東京教区東支区が合同

去る６月22日（主日）、日本基督教団九段教会（靖国神社前に位置し、今年教会設立150周年を迎えた）に、12の教会が「共にこの地に生きる」というテーマで集まった。

第１部の礼拝説教は、李銀珠牧師（ハンサラン教会）がヨハネ１：１～５の本文に「イエス様の先在」という題目でメッセージを伝えた。引き続き聖餐式を通して主にあって一つであり、一つの体をなす兄弟姉妹であることを確認した。

第２部は韓国から招待されたカリスクワイアーの歌声で主を讃美した。

この行事は毎年６月に開催され、韓日の教会が交互に集まり、礼拝と聖餐を共に分かち合いながら親交を深め合っている。また交流会後に残った会費と献金は、隣人を自分のように愛しなさいという御言葉に従い、必要なところに贈る小さな善行も続けている。

関東地方会のハンサラン教会、西新井教会、東京聖山キリスト教会、東京希望キリスト教会が参加し、日本基督教団からは８つの教会が参加した。

全国女性会

オンライン研修会を開催

ハラスメント・嫌がらせについて講義

2025年７月12日（土）13時、全国女性会宣教社会局主催の研修会をオンラインで開催した。

主題「境界線～ boundary Line ～」、副題「超えてはいけない、越えさせてはいけない」として、関西学院大学人間福祉学部教授の李善恵牧師を講師に迎え約80名が参加した。

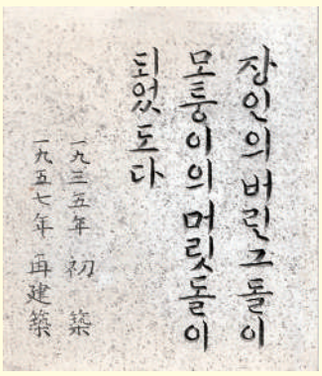
今回の研修では「ハラスメント・嫌がらせ」について学び、これらのワードは教会という共同体からは遠い所にあるように思われがちだが、よく家族に例えられる教会では良くも悪くもお互いに親族のような親密さから、踏み込んではならない境界線を越えてしまうことが起こりやすい環境なのではとの気づきが与えられた。互いに励まし、愛し合うべき教会がハラスメントの温床にならないために、自分には関係ないと思うのではなく「私ならどうするのか」という視点で考える必要を感じ、「悪意がない」と軽く捉えるべきではないと感じた。

また、相談窓口の必要性も強く感じ、全国女性会や総会全体で啓発教育が継続して行われることを期待しながら、充実した研修の時間を終えることができた。この場を借りて、全国からオンラインに集ってくれた女性会員、及び男性信徒や教職者の皆さまに御礼申し上げたい。

京都教会創立100周年の歴史をふりかえって

京都教会 第1代礼拝堂

教会学校第１回卒業式



京都教会は、2025年10月に創立100周年を迎える。この間、『在日大韓基督教京都教会50年史』（兪錫濬・田永福・楊炯春・金在述編著、1978年）と『京都教会의 歴史（1925～1998）』（金守珍著、1998年）を編纂・刊行したため、教会史や在日史の研究者からの京都教会への問い合わせも少なくない。そこで、創立100周年を迎えるにあたり、李相勲牧師を中心として、改めて100年にわたる京都教会の歴史の再検討を進めてきた。

京都教会には、1929年10月６日以降の教会日誌が残されており、教会史を検討するための重要な資料として活用されてきた。今回、日本・韓国において新たな資料を収集する中で、韓国に残る教会史関係資料の中に、京都教会をはじめとする、京都における在日韓国人宣教に関わる記事を探し出すことができた。そうした新資料の検討を通して、京都帝国大学などに留学した韓国人学生たちにより形成された信仰共同体や、京都市内各地（東九条・西陣・伏見など）に存在した韓国人教会との関係が、京都教会の歴史を考える上で重要であることが明らかになりつつある。

中でも、1925年頃から西院・壬生地区に住む労働者たちによってはじめられた家庭礼拝を組織化した礼拝へと導いた、崔明鶴氏の経歴が明らかになったことは大きな成果である。1898年に咸興で生まれた崔明鶴氏は、セブランス聯合医学専門学校を卒業した後、解剖学の研究を進めるため、1928年に京都帝国大学医学部に入学した。1930年1月に崔敬学牧師が初代牧師として赴任するまで、崔明鶴氏が京都教会の礼拝を導いていた様子は、当時の教会日誌に詳細に記録されている。

1940年以降、日本基督教団への編入と日本語使用の強要、京都各地にあった教会・伝道所の解散、といった弾圧が続いた中でも、京都教会は主に守られて光復を迎えた。そして、1948年に第５代牧師として赴任されたのが、田永福（織田楢次）牧師である。田永福牧師の朝鮮伝道や、京都教会をはじめとする在日大韓基督教会での働きについては、『チゲックン　朝鮮・韓国人伝道の記録』（日本基督教団出版局、1977年）などに記録されている。そうした記録や、京都教会での取材・インタビューをもとに、乗松雅休牧師と田永福牧師の朝鮮宣教をテーマとして製作された映画『無名』が、2025年６月25日に韓国で公開された。この映画をみて韓国から京都教会を訪れる方も増えている。

また、1951年に京都教会が経営を引き継ぎ、田永福牧師が園長として大きな働きをされた向上社保育園は、2024年に創立90周年を迎えた。創立90周年記念講演会では、孫である伊藤真理氏から、保育園の運営に尽力された田永福牧師と織田重子師母についての思い出をお話いただいた。

京都教会は、約２年半の無牧期間を経て、李成俊牧師を新たな担任牧師として迎え、５月18日（主）には、牧師委任式を開催することができた。現在、京都教会の全信徒がキリストにあって心を一つにし、創立100周年行事の準備を進めている。６月29日（主）には、創立100周年行事の一環としてホームカミング礼拝を開催し、さまざまな理由により教会を離れておられる方々を招待することができた。10月には創立100周年記念礼拝（10月５日主日午前）、創立100周年記念式・祝賀会（10月26日主日午後）を予定している。また、100年の歴史に感謝しつつ、教会バザ」（11月1日開催予定）やクリスマスコンサート（12月24日開催予定）の準備も進めている。こうしたさまざまな礼拝と行事を通して、これまでの100年にわたって、京都の地での信仰生活を守ってくださった主に栄光を帰し、新たな気持ちで次の100年に向けて信仰を継承していきたい。

田永福牧師名誉推戴式

２０２５年李成俊牧師委任式

韓日NCC両国協議会開催

「平和と和解の使徒としての教会の役割」テーマに

解放80周年及び日韓協定60周年を迎え、韓国と日本NCC両国協議会を6月11-13日、韓国キリスト教会館、京東教会、蓮洞教会などで開催した。

〈平和と和解の使徒としての教会の役割〉というテーマで集まった今回の協議会は、コロナ禍の影響で６年ぶりに開催され、韓国NCCから40名、日本NCCから24名が参加し、KCCJからは鄭守煥総幹事をはじめ５名が参加した。

礼拝と講演、発題、分科討議などを行い、声明を出し、北東アジアの正義と平和、生命の価値を実現する宣教的使命に力を合わせることにした。複合的な危機を迎えた北東アジアの状況を共有しながら、韓国と日本が北東アジア平和体制のためのパートナーとして対話すべきであり、気候危機と脱原発、社会的弱者の嫌悪と差別、日本軍慰安婦など、まだ解決していない懸案に対する立場も明らかにした。

また、両国共通の課題である人口問題の深刻さも診断した参加者たちは、「超高齢化及び少子化の問題は、過度な競争を助長し、生活の不安定性を深め、社会的緊張と敵意を生み出し、社会的弱者に対する嫌悪と非支配文化を選択する人々に対する排除を増幅させる新自由主義的社会構造と結びついている」とし、「私たちは教会がこのような時代的使命を痛感し、他者に向かって自分を開いたキリストの模範に従い、すべての存在を歓待し、尊い存在として生きることができるように社会を変革する責任を果たすように連帯することが教会の役割であることを告白する」とした。

分科会では、「超高齢化社会」、日本軍慰安婦問題を含む「性正義」、「青年世代の平和教育」、「非核化、原発問題」を含む「気候危機」への対応などに対する教会の役割を模索した。

＜お知らせ＞

●2025年８月12日（火）～ 15日（金）まで、総会事務局は夏季休暇のため業務をお休みします。

公告　在日大韓基督教会 第58回 定期総会 召集

在日大韓基督教会 第58回定期総会を総会憲法第13章（総会）、第60条（定期総会組織）、第61条（定期総会召集）と総会規則第２章（定期総会）、第３章（総代）第３条（総代及び準総代）、に基づいて次のように召集します。

（1）標語：『추수할 일꾼들을 보내주소서』（마태9：37 ～ 38）
「収穫のために働き手を送ってください」（マタイ9：37 ～ 38）
（2）日程：2025年10月12日（主日）19：00 ～ 14日（火）12：00
（3）会場：在日大韓基督教会 福岡教会　福岡市博多区千代5－11－48（☎092－641－9551）
※「総代・準総代の交通費・宿泊費は各地方会が負担し、女性会・青年会代表はその機関が負担する」
（総会規則 第３章第３条４項）

2025年８月１日
在日大韓基督教会　総会長 梁 栄 友　書 記 李 明 忠

公告　「第20回 KCCJ人権シンポジウム」案内

・主　題：共に生きるいのちの天幕をひろげよう！
～宣教120 周年に向けてKCCJ の現在と未来を考える～
・日　程：2025 年９月14 日（主日）夜～ 15 日（月／休日）
・会　場：在日韓国基督教会館（ＫＣＣ）＊14日はオンラインだけ
大阪市生野区中川西2－6－10 電話（06）6731－6801
・主　催：在日大韓基督教会（KCCJ）社会委員会／ KCC ／西南KCC ／ RAIK
・参加者：KCCJ 各教会／社会委員会委員／地方会社会部員／女性会／青年会／
宣教協約団体（日本基督教団、日本キリスト教会）／外キ協・外キ連関係団体
・参加費：KCCJ 関係者：5,000 円［交通費補助あり］
・他教団の方：5,000 円　・14日だけ参加：資料代：1,000 円
・申込先：在日韓国基督教会館（KCC）締切：９月1 日(月)
FAX（06）6718－0988 https://forms.gle/bEBaFd8ax2oPcpgv5